

《原 著》

^{99m}Tc -MIBI による副甲状腺シンチグラフィの撮像法に関する検討

planar 像におけるピンホールコリメータと平行多孔コリメータとの比較

藤井 博史* 岩崎隆一郎* 尾川 浩一** 橋本 順*
中村佳代子* 国枝 悦夫* 三宮 敏和* 久保 敦司*
稲垣 和敏***

* 慶應義塾大学医学部放射線科

** 法政大学工学部電子情報学科

*** 社会保険埼玉中央病院放射線科

要旨 ^{99m}Tc -MIBI 副甲状腺シンチグラフィをピンホールコリメータとパラレルホールコリメータの 2 種類のコリメータを用いて施行し、両者の比較検討を行った。感度および分解能は、実際に副甲状腺の撮像を行う距離では、いずれもピンホールコリメータの方が優れていた。甲状腺および副甲状腺を模した頸部ファントムを用いた実験では、ピンホールコリメータを用いた方が、副甲状腺を模した線源像の描出が良好であった。副甲状腺機能亢進症が疑われた 30 症例を対象にして、2 種類のコリメータを用いて ^{99m}Tc -MIBI シンチグラフィを施行した結果においても、過機能性副甲状腺結節の描出はピンホールコリメータを使用した方が良好であった。 ^{99m}Tc -MIBI 副甲状腺シンチグラフィを施行して過機能性副甲状腺結節を検索する場合には、ピンホールコリメータの方が有用性が高いと考えられた。

(核医学 36: 425-433, 1999)